十七世紀の日本の医学界に極めて大きな影響を及ぼした書物は、『万病回春』『医方考』『医学入門』『本草綱目』の四書である。しかしながら、これらの書物の著者たちは、『本草綱目』の著者・李時珍を除いて本書に登場しない。龔廷賢、呉崑、李梴の三人はいずれも優秀な医師であったが、中国医学史上、時代をリードするような学説を生み出した人ではなかったからであろう。このあたりにも中国と日本の認識のずれが少なからず存在する。

日本の研究者はこれらの点に注目し、日本における各家学説研究に本書の成果を取り入れてほしい。そのことがまた、中国のこの分野の研究に裨益するところとなるはずである。

本書を医史学研究者に等しく推奨するには、内容があまりにも専門的すぎよう。しかし、漢方臨床家にはぜひ一読してもらいたいと希望する。中国の各家学説など自らの臨床に全く関係ないと考えておられる方でも、中国伝統医学の学説の形とはこのようなものであるということを、ぜひ認識していただきたいと思う。少なくとも、漢方医学がたった一つの理念で動いているのではないということを理解していただけるであろう。

（安井　廣迪）

〔東洋学術出版社、千葉県市川市宮久保三―一―五　電話〇四七―三七一―八三三七、二〇〇〇年十二月八日、A五判　二九〇頁、本体価格三六〇〇円〕

正木　繁　著

『消印は知っていた――幕末から明治・大正・昭和の〝たより〟が綴る庶民医療史』

題名が示すように、郵便物から見た医史である。幕末から昭和四十八年まで一二八年余りを編年体で記している。

著者は「全国の郵趣業者や古書店、それぞれの即売会などの人たちから電話やファックス等で情報を集め」「休日や休診日を利用して全国の手紙市に出かけ」て資料を収集したという。掲載されている資料は手紙と葉書だけでなく、その年に関係ある錦絵・医書・種痘証・双六・広告・ポスターなど種類も多い。エネルギッシュに資料収集された様子が察せられる。

これら豊富な資料を駆使して庶民の医療との関わりを語っているが、手紙に多く見られるのは、感染症と闘う患者とその親族からの切実な声である。

明治十二年のコレラ大流行では「幣村八月十一日克烈刺病発ル。二週間之内死亡廿人程有之」と悲惨な状態を伝えている。明治二十八年にはコレラが再び流行し、九月三日に第三高等学校医学部（岡山大学医学部の前身）は「悪疫流行ニ付、夏期休業ヲ本月二十日迄延期ス」と関係者に通知している。

北里柴三郎とベーリングが発明したジフテリア血清は明治二十九年に製造販売され、その広告はがきが同年の七月に出ている。その後、インフルエンザワクチンの製造や皮下注射

の導入など、日本の医療が近代化していき、その恩恵に浴した患者の声が伝わってきた。大正元年の手紙では「……私嬉しい！　嬉しいんですもの!!　あのね一昨日又他の薬を今度は腕に注射して頂きましたの、そしたらそれがきいたのですか、昨日から大変ぐわいがよくて熱もずっと下ってたった七度三分しかなかったのですの……私これをかぎりに全快出来る様な気がして……」と喜びと希望に満ちている。

一方、三名の医師に診てもらい、注射もしてもらったが、医薬の効果がないという嘆きや、いつの世も変らない医療費の悩みを訴える手紙がある。「食事も通らぬ日々、医者・薬・養生食（牛乳・タマゴ）等にして金銭ノ入用少からず、母仕事も出来ず、日々介抱に付き添ひ居り度故、実に困難ハ言葉に尽せず、両親の心底御察し下されて、仮令少々なり共○印御送付に預り度、金子御都合悪しくして御送附無候ば一度……」（明治三十九年）と親から子へ医療費の援助を頼んでいる。

本書は手紙を通して、医療にたずさわる側、医療を受ける側の生の声が伝わってきて非常に興味深い内容に満ちている。また写真も豊富で、見ているだけでも楽しい。

なお付記すると、本書には明治・大正・昭和の診察券が載っていて、その中に明治四十年の順天堂医院の紙製診察券がある。明治初期の順天常の診察券は木版であり、蔵方家から出てきた。表には「順天堂」と焼き印がしてあり、裏は患者の住所・名前・年齢が墨で書かれている。『順天堂史・上巻』の編纂の折に貸して、今でも順天堂大学に保管（？）されている。

（蔵方　宏昌）

〔朝日新聞社刊、二〇〇〇年二月二十一日発行、B五判、二二六頁、定価本体三三〇〇円〕

チャールズ・D・オマリー著　坂井建雄　訳

『ブリュッセルのアンドレアス・ヴェサリウス　一五一四―一五六四』

本書は、カリフォルニア大学ロサンジェルス校医学部の医史学教室のオマリー教授（一九〇七―一九七〇）が、近世解剖学の創始者であり近世医学の祖とされているアンドレアス・ヴェサリウス（一五一四―一五六四）の没後四百年を記念して、その全生涯をあらゆる角度から綿密にしかもダイナミックにとりあげ、奥行きと拡がりと味わいのある伝記として出版された「Andreas Vesalius of Brussels 1514 By C.D. O'Malley」の全訳である。

訳者の坂井建雄教授は、優れた解剖学者であるのみならず、医学の歴史や古典にも造詣の深い碩学であり、得意の語学力を活かして原著に忠実に、しかもきわめてわかりやすいよくこなれた日本語に翻訳された。その意を十分に理解したエルセビア・サイエンス・ミクス社がそれにふさわしい堅牢で重